

都留市社記

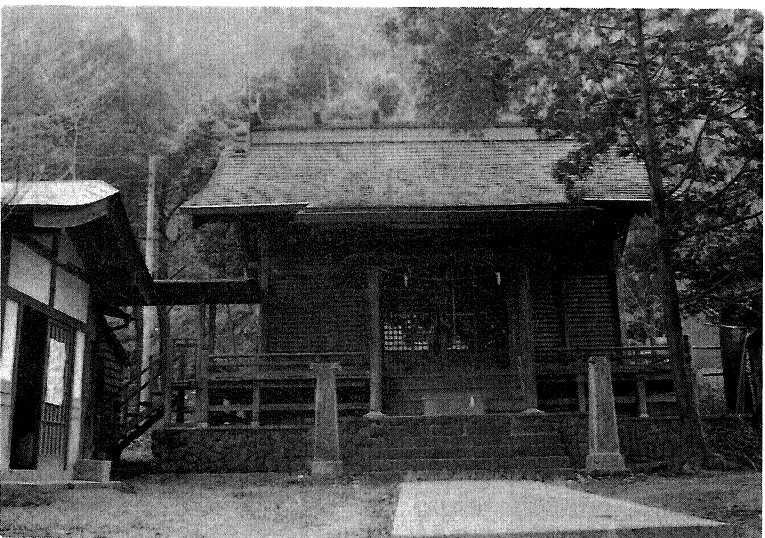
神社名 大神社

鎮座地 都留市下谷仲町一、七二三番地

祭神 天照皇大神

須佐之男命

建御名方命



例祭

四月十五日

由緒

南鶴神社誌に

「創立は古く本

殿内陣は、第一

一二代靈元天皇

の御代貞享三年

(一六八六年)

丙 七月の中島

金左衛門の寄進

にして、宝物と

して蔵する鏡は

代官秋元但馬守

の重臣高山伝右

衛門尉平繁文の内儀の奉納、鏡裏に負享四年^{丁卯}五月。とある。

旧社殿は御伊勢山上に在りしが、いつの頃か現社地に遷宮せしものである。社殿前にあつた石橋に、「享保十八年閏正月二十八年日」と銘があるとのことである。

高山氏は代官秋元但馬守上州館林より国替の際随行せし人なりと。

現本殿は明治二十四年、拜殿は昭和十一年の建築せしものなり。」

と記されている。

甲斐国志には

一「太神宮社」中町ノ東南
山足ニアリとある。

社殿

本殿は流れ造りで一間社、

拜殿は神明造りトタン葺で、三間半 \parallel 三間。

神明造りは、大社造りと共に神社建築の最も古い形式で、切妻造り妻入建物にして屋根に反りがあり千木は置千木である。

鳥居木造一基、鈴一

境内社に社務所がある。